



ワクワク体験、音あそびのはじまり

宮崎学園短期大学 小川美由紀

私は0歳児が初めて「音であそぼう」の活動を行う場面を観察させていただきました。子どもたちが生まれてはじめて見る・聞く・感じる「音」に、どんな表情を見せるか、どんな反応をするのか、子どもたちよりも、私の方がワクワクしながら始まるのを待っていたように思います。

音あそびでは、何かが「できるようになる」「できなければいけない」ということはありません。大好きな先生と、大好きな遊びを楽しみ、そこに聞こえてくる音、ゆらゆらと揺れる感覚、様々な感触、振動など…子ども自身がそれらに気づく・感じるという実体験をすることが大切です。この日は、子どもたちが気づく・感じる、その瞬間・瞬間を、私自身も体感することができた本当に感動的な30分間でした。写真は最後の楽器あそび。この笑顔が全てを物語っています。“子ども主体”の保育の大切さ、そして保育者の“待つ・見守る”姿勢の大切さを改めて学ばせていただきました。

(清武みどり幼稚園 いちご組・0歳児)

こども理解のとびら

第1号 (2021年6月15日)

5月から“2021 こども理解プロジェクト MIYAGAKU”が始まりました。保護者の皆さまには、本プロジェクト研究にご理解いただき心から感謝申し上げます。参加メンバーは、それぞれ両園に出向き、子どもたちの日常の様子を観察しています。生き生きと遊ぶ子どもたちの姿を観察する私たちが大きな感動を覚えます。また、プロジェクト会議では、子どもたちの姿から学んだことが次々と語られ、さらに豊かになるにはどのような環境が必要であろうか等、多くの議論を重ねています。そのような会議を重ねる中で、会議で話題となったことや先生方の感想を保護者の皆さまにお届けしたいということでニュースを発刊することとなりました。

本ニュースが保護者の皆さまの子育てに少しでもお役に立てたら幸いです。

〈今月のエピソードタイトル〉

♪丸い形を転がしてみたよ ♪満足のタッチ ♪ワクワク体験、音遊びのはじまり ♪たかーくたかく何がみえますか～？
♪もぞもぞ動く“だんごむし”観察 ♪ロボットできたよ ♪お食事プレートづくり ♪形を吟味してつくる ♪ごはんができたよ ♪レゴブロック遊びのはじまり

「2021 こども理解プロジェクト MIYAGAKU」宛てにご意見、ご感想をお待ちしております。右横のQRコードを読み取り、ご意見、ご感想をご気軽にお寄せください。今後のプロジェクト活動に活かしていきたいと思っております。



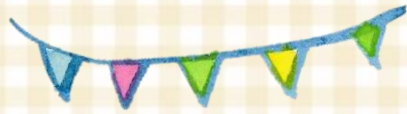
ダンゴムシ発見！



丸い積み木を転がすための道づくり

2021 こども理解プロジェクト MIYAGAKU





子どものWA!

プロジェクト会議で話題になったトピックスをご紹介します。

今回は、宮崎学園短期大学の有嶋誠先生です！



有嶋 誠

宮崎学園短期大学保育科准教授 元宮崎市立
宮崎小学校長 元宮崎県小学校長会長

東大宮小学校長時代に読書活動を推進し、平成 27 年度「子どもの読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受賞。専門は幼稚園等と小学校の円滑な接続・国語科教育 等

「絵本は子どもの宝物！～クシュラの奇跡～」

「クシュラの奇跡(ドロシー・バトラー1984/2006)」をご存知でしょうか。

複雑な障がいを負ってニュージーランドに生まれた「クシュラ」という女の子の“生きる”戦いの記録であり、その成長に関わった数多くの絵本の物語です。

クシュラは、染色体異常で脾臓・腎臓・口腔に障がいがあり、両親は絶望的な日々を送ります。しかし、両親は懸命に治療法を模索しました。母親は可能性を信じ何の反応も示さないクシュラを抱いて絵本の読みきかせを始めました。昼も夜も眠れずにおずがるクシュラとの長い時間を埋めるために母親が始めた読み聞かせに生後4か月のクシュラが強い関心を示しました。3歳までに母親がクシュラに読んであげた絵本はなんと140冊だったそうです。

一人では見ることも物を持つこともできないクシュラにとって、母親が読み聞かせる1日14冊の絵本により、クシュラは豊かな言葉を知り、広い世界へ入ることができました。5歳になる頃にはクシュラの知性は平均よりはるかに高くなり本を読めるようになりました。2012年現在クシュラは40歳になり「ずっと勉強を続けなさい。」と言う母の遺言を守っているそうです。

クシュラが重度の障がいがあるにも関わらず水準以上の発達を遂げたのは、両親の愛情と援助が一貫して与えられた環境の中で“言葉と絵の宝庫”である絵本に触れたことによるものという推測があります(内田2009)。

ところで、読書活動は言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。しかし、今日の子どもを取り巻く環境は、少子化や核家族化に伴う地域社会のコミュニケーションの欠如に加え、テレビゲームやDVD等の多様なメディアの普及、インターネットや携帯電話に代表される情報ネットワークの広がりによって大きく変容しつつあり、これらのことから子どもの読書離れが指摘されています。

小学校入学前の子どもにとって絵本は宝物です。言葉がわからなくても文字が読めなくても、絵本には夢があります。希望があります。そして何よりも絵本という短い物語の中には、勇気や思いやり、愛情、友情、挑戦等、これからの複雑な社会を生き抜いていく子どもにとって重要な学びがあります。そして、時にはクシュラのように奇跡を起こします。

特に、小学校入学前の子どもにとっての読み聞かせは、幼稚園等での先生との信頼関係を深めたり、親の愛情を感じたりするなど素晴らしい効果があります。また小学校での読書に親しむ習慣と態度の基礎を育みます。“絵本は子どもの宝物”です。社会は急速にデジタル化に進行中ですが、絵本というアナログの素晴らしさをぜひ親子で体験してほしいと願っています。



〈参考文献〉

バトラー, D (2006) クシュラの奇跡—140冊の絵本と1日の日々。百々佑利子(翻訳)。のら書店
内田伸子(2009)私の読書論：読書を通して“自己の物語”を紡ぐ。The Science of Reading, 52(4)
「2歳で約500冊の絵本を読んだ読者苦手ママの絵本事情について」
https://note.com/tamo_san_fufu/n/n927275bcc945 (2021年6月9日閲覧)